

はくぶつかん ネット

第43号

平成23年度【1月～3月号】

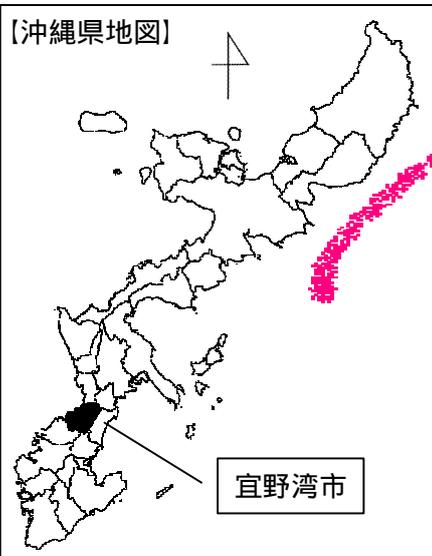
<年3回発行>

ぎのわんの“^{あざ}字”展 シーサーが見守る「^{ななかー}ちゆんなームラ」 ～^{くさてい}七泉の恵み・グスク腰当て～

博物館では、宜野湾市内の字を紹介する字展を毎年行っています。今回で5回目となる字展は、喜友名区の自治会や字誌編集委員会との共催で「^{あざきゆうな}字喜友名」をテーマに展示会を開催しました。多くの方にご見学いただきまして、博物館としては、嬉しいかぎりでした。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

それでは、展示会の内容をいくつか紹介したいと思います！！

喜友名ってどこ??



【宜野湾市地図】



【喜友名泉(国指定重要文化財)】

【ナナカー】

喜友名には、アカンナー、バシガー、ヤマガー、ヒージャーガー、ミーガー、ウフガー、カーグラーの7つの湧泉がありました。ウフガーとカーグラーは、^{ちゆんなーがー}喜友名泉として知られています。(現在見に行くことができるのは、喜友名泉のみです)

喜友名は、集落全体が碁盤の形のように規則正しく区画整理されています。そこには石彫りのシーサーが、集落や屋敷の中に他から悪いものが入ってこないよう「反り(ケーシ)」として、集落を取り囲むように配置されています。

シーサーは全部で7体あり、かつては分家などが集落外に建って集落が広がると、シーサーもその前に移して、新旧問わず区民全員がその恩恵を受けられるようになっていたそうです。

別添付の地図を使って喜友名を探検して下さい

【喜友名グスク】

喜友名グスクは、キャンプ瑞慶覧内と宜野湾北中城線にかかる位置にあり、縄文時代(約3500~2500年前)~近代・現代まで幅広い年代にわたって人が住んでいた様子が伺えます。

集落北端に位置し、石垣が巡らされ、背後から集落を守る位置にありました。

グスク時代に相当する遺物としては、中国産のお茶碗やタイ産の壺、ベトナム産の焼物や徳之島産のカムイヤキなど東アジア各地で生産された焼物が発見されています。また、「北谷町のイチグスクと喜友名グスクで戦いがおこり、グスクとグスクの間の水田から大量の弓矢が出てきた」という伝承も残っているそうです。

喜友名グスクは現在、県道の道路拡張工事に伴いその大半が破壊されてしまいました。

< 発掘現場 >



[沖縄県立埋蔵文化財センターより提供]

【ヌバタキ遺跡】

喜友名東原ヌバタキ遺跡は、宜野湾ゴルフレンジ近くに位置し、約2500~2000年前に人が生活していた遺跡です。

遺跡からは土器、石器、木の実、貝殻など昔の人が使用していた道具がたくさん発見されています。また、21軒以上の竪穴住居も検出されました。沖縄県内においては、竪穴住居があまり検出されないため、当時の人が住んでいた集落の様相が分かるとも貴重な遺跡となっています。その他にも野外炉3基、土坑2基が見つっています。

当遺跡の大きな特徴として、大形住居が3軒検出された事が挙げられます。これは、集落のコミュニティーセンターのような役割を果たしていたのではないかと考えられています。

< 大形竪穴住居3軒の配置状況 >



< 竈の一部 >



初！お目見え〜

【ガン(竈)の一部】

ガンとは遺体を収めた棺をお墓まで担いで運ぶ朱塗りの輿こしのことで、「アカンマー(赤馬)」とも呼ばれています。市内では、野嵩・喜友名・真志喜(大山と共同)・宜野湾・大謝名が所有していました。写真のガンは、かつて喜友名で使われていたものです。

このガンはもともと、喜友名集落内のガンヤー(竈屋)にありました。1981(昭和56)年7月、当時の自治会長をはじめ、関係者の方々と共同調査を行いました。ガンの破損が著しく、自治会での保存が難しい状態だったため、宜野湾市教育委員会が管理をするようになりました。

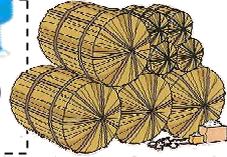
近世琉球の地方組織を知ろう！！

前号では、宜野湾間切の設立と普天間参詣について触れました。今回は、「近世琉球と宜野湾」展で紹介された地方の組織について紹介します。

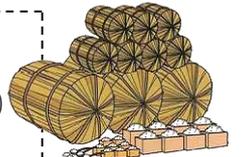
お給料発表！！



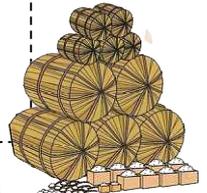
知念親雲上(地頭代)の場合：
 米4石4斗1升1合4勺¹
 (現在の価値にして約1,764,600円²)
 雑石1石6斗6升5合3勺3才



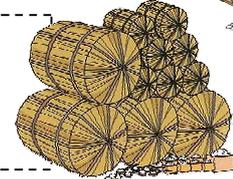
佐喜真親雲上(夫地頭)の場合：
 米3石7斗8升8合3勺2才
 (現在の価値にして約1,515,300円)
 雑石2石1斗3合1勺



桃原親雲上(夫地頭)の場合：
 米5石5斗9升2合9勺7才
 (現在の価値にして約2,237,200円)
 雑石1石4斗5升7合3勺7才



宇地泊親雲上(夫地頭)の場合：
 米4石7斗1升7合6勺3才
 (現在の価値にして約1,887,000円)
 雑石1石8斗7升5合2勺5才



1 「沖縄県下各間切各島夫地頭以下役棒調書」(1980)より
 2 日本銀行金融研究所貨幣博物館(お金に関するFAQより算出)
http://www.imes.boj.or.jp/cm/htmls/feature_faq.htm#question1
 現在の価値価格は、あくまで目安としてお考え下さい。

【給料がある役人】

ジドゥデー
地頭代(1人)

【現在でいう市長】

フジトー
夫地頭(3人)

〔夫地頭の中から1人地頭代に選ばれる。〕

シュイヌフェークン
首里大屋子
ウフウッチ
大掟
フェーウッチ
南風掟
ニシウッチ
西掟(計4人)

【現在でいう
中堅の地方役人】

ムラウッチ
村掟(9人)

【現在でいう自治会長】

- 宜野湾掟
- 野高掟
- 普天間掟
- 安仁屋掟
- 喜友名掟
- 大山掟
- 高良掟(大謝名)
- 嘉数掟
- 我如古掟
- 新城掟



疑問：宇地泊・伊佐・
神山・真志喜の4つの
村の掟がないな～？

答え：この4つの村は地頭代と夫地頭のあつかいの曖昧地だったので、彼らが村掟を兼任していたと考えられます！
 責任をもって支配する、領する村

【薄給／無給の役人】

惣耕作当2人、惣山当1人、仮惣山当1人、勘定人16人、相附文子30人、仮相附文子24人、
 見習文子9人、升取2人、耕作当28人、山ノオヒヤ12人 計142人
 その他にも…、馬番12人、村佐事14人、島文子6人 etc…

役人の数は、総計200人から300人程度いたと考えられています。

詳しくは「宜野湾市史」4巻を見てね～！！



現在からすると、言葉の表現が違うのでなかなか頭に入ってこなかった事があったのですが、この展示会で解明しました [はくぶつかんネット担当：泊]

23年度 博物館市民講座

6月「宜野湾の戦跡をめぐる」

講師：平敷 兼哉（宜野湾市立博物館 学芸担当主査）

野外見学！



6月は慰霊の日に関連した講座でした。収容所があった野高や、我如古の住宅街の中にあるチンガーガマ、嘉数高台公園などを巡り、沖縄戦について考えました。天気も悪く、風も強い一日でしたが、無事に野外見学を終えることが出来ました。

11月「近世琉球と宜野湾」

講師：田名 真之（沖縄国際大学教授）



11月は秋の特別展「近世琉球と宜野湾」関連の室内講座でした。宜野湾間切ができた頃の宜野湾についてや、間切統治、地方役人などについてお話していただきました。今年も多くの方が参加され、みなさん琉球王国時代の宜野湾について熱心に学んでいました。

7月「人類の足あと展 ギャラリートーク」

講師：藤田 祐樹（沖縄県立博物館 学芸主任）



7月の講座は、企画展「人類の足あと展」の関連講座でした。前半は人類の進化についての講話、後半は企画展示室で実際の資料やレプリカを見ながら、人類の進化の不思議について学びました。藤田先生のユーモア溢れるお話を聞きながら、人類の長い進化に思いをはせた一日となりました。

12月「琉球王国時代の道」

講師：平敷 兼哉（宜野湾市立博物館 学芸担当主査）

野外見学！



12月は特別展開連の野外講座でした。浦添市の安波茶橋や大山のクンジャンブシなど、琉球王国時代から現代まで残る歴史の道「西海道」を巡りました。市民講座初の、市外も巡る長丁場の講座でしたが、みなさん元気に歴史の道を辿っていました。

8月「人類の足あと展 ギャラリートーク」

講師：知念 勇（宜野湾市立博物館 館長）



8月は企画展「人類の足あと展」の関連講座第2弾でした。前半は人類の進化や港川人の人骨についての講話があり、後半は企画展示室の解説でした。実物やレプリカを見ながらの解説に、みなさん目を輝かせてお話を聞いていました。

1月「トートメーと供え物の話」

講師：稲福 政育（沖縄国際大学非常勤講師）



沖縄のトートメーや香炉の種類、食品サンプルを使って行事のお供え物などについてお話していただきました。私たちの身近にあるトートメーやお供え物ですが、この講座を通して、また違った面から、沖縄の文化を学ぶことが出来たのではないかと思います。

9月「闘牛！」

講師：宮城 邦治（沖縄国際大学教授）



沖縄で、戦前から盛んに行われている闘牛の歴史や、牛と人々の深い関わりなどについてお話していただきました。名牛「ゆかり号」の映像や、宮城先生の熱い闘牛トークを聞いて、みなさんすっかり闘牛のとりこになったようでした。

2月「語やびら ちゅんなー」

講師：字喜友名の先輩方7名



2月は「ぎのわんの字展」に関連した講座でした。先輩の思い出話とともに、戦前の字喜友名のようすや暮らしなどについてお話していただきました。子どもの頃の遊びや、毛アシビーのお話では、みなさん昔を思い出して大盛り上がりでした。

10月「ぎのわん“見どころ”百選！」

講師：新垣 義夫（宜野湾市立博物館協議会会長）

野外見学！



今年の「ぎのわん“見どころ”百選！」では、宜野湾並松があった通りや、嘉数のテラガマ、我如古のヒージャーガーなどを巡りました。ほかにも、道端に咲く植物のお話や、ススキを使ったほうぎの作り方など、宜野湾の魅力が詰まった講座となりました。

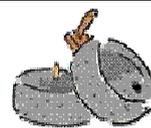
23年度の博物館市民講座

6月から毎月1回行っていた市民講座も、無事終了することができました。この一年間、ご参加いただいたみなさん、ご講話くださった講師の皆様、本当にありがとうございます。

次年度も、みなさんが宜野湾について楽しく学べるような市民講座を企画していきたいと思っていますので、今後も、博物館市民講座をよろしく願致します！



昔の道具を体験して学ぶ



～出前講座・社会科見学好評でした！！～

博物館では、小学校の社会科見学の際、見学だけでなく、体験を通していろいろなことを感じてもらおうと「昔の道具体験」を行っています。昔の人たちはどのような服をきていたのか?? どのような農具を使っていたのか?? 時代とともに農具はどう進化してきたのか??など、子どもたちに直接見て・触れてもらうことで、より楽しくイメージしやすい学習内容になっています。

また、博物館に行きたいが、移動手段や距離、時間に問題がある学校に関しては、職員が直接出向く「出前講座」(市内対象)も、今年度から本格的に開始されました。今年度、社会科見学と出前講座における、「道具体験」の利用数は市内外12校と、多くの学校に利用していただきました。「出前講座」に関しては市内のほとんどの小学校で実施することができるという、とても喜ばしい結果となりました。

子どもたちの感想も、「道具に触れられて楽しかった」「たくさんの道具を知ることができた」「昔の人はすごいと思う」など、楽しく学習できた様子がうかがえました。

今後とも、博物館は学校と連携をとり、子どもたちの学力向上に努めていきたいと思っておりますので、次年度も多くの学校のご利用をお待ちしています。ただし、事前の打ち合わせが必要になりますので、お早めにご相談下さい。



頭にパーキ(かご)を乗せて物を運んでいた

- ・バサー(着物)
- ・クバガサ(ぼうし)
- ・クバオージ(うちわ)

昔の道具たち



米を脱穀する際に使っていた足踏み式脱穀機



各学校から、お礼としてお手紙やお花をたくさん頂きました。職員一同とても嬉しく思っています。どうもありがとうございました！！
頂いたものは、ロビーや玄関に飾ってありますので、ぜひぜひご覧になってください

博物館「友の会」会員募集中!!

友の会とは

博物館が行う活動の支援を通して、宜野湾の歴史や文化を学びながら、会員相互の親睦を深めることを目的としています。市外の方でもご参加いただけます。

自然・歴史・文化に興味がある方
博物館が好きな方、この機会にぜひ
「宜野湾市立博物館友の会」に入会
して楽しく学びませんか?

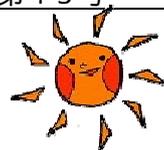


会員特典

- ・博物館主催事業および本会主催事業への参加
- ・本会および博物館が開催する行事の通知
- ・「はくぶつかんネット」の送付

会費	普通会員(一般)	・・・年額	1,000円
	準会員(大学生、小・中・高生)	・・・年額	500円
	家族会員(普通会員<2人目から>)	・・・年額	500円
	賛助会員(本会の目的に賛同し支援する団体または個人)	・・・年額	10,000円

わらば～体験じゅく2011



わらば～体験じゅくは、市内の小学生5～6年生30人を対象に、普段触れることの少ない自然や文化を、体験を通して身近に感じ、学んでもらうことを目的とした体験型教室です。ここでは平成23年度・第12期生の様子を紹介します。

「タイモの植付け・収穫」、「和紙作り」・・・今年度も様々な体験を行い、他校のお友だちもたくさんできたようで、子どもたちはたくましく成長したようです。体験じゅくは、毎年5月ごろ募集を行います。子どもたちにとって体験は、自信につながる大切な要素です。来年度もぜひぜひ、みなさんのご参加お待ちしております。

< 6月 > 講師：博物館職員



開校式&博物館探検

ドキドキの開校式で自己紹介。その後、普段は見ることのできない、収蔵庫など博物館の裏側を見学。

< 7月 > 講師：久場 安次先生



海の観察会

海藻の名前や海にいる生き物に関するお話。最後には、とってもきれいな海藻おしばのしおりを作りました。

< 8月 > 講師：伊佐 實雄先生



タイモの植付け

宜野湾市の特産であるタイモの植付け体験。タイモを知り、農家の方々の大変さを知ることができたかな？

< 9月 > 講師：博物館職員



宿泊学習

石川青少年の家にてテント泊。ナイトウォークラリーやカレー作り、登山などみんなの絆が深まりました。

< 10月 > 講師：比嘉 和行先生



漆喰シーサー作り

シーサーの歴史について勉強。その後、漆喰と瓦を使用して、世界のひとつだけのシーサー作りをしました。

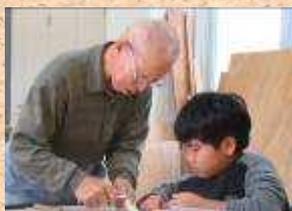
< 11月 > 講師：上地 正勝先生



和紙作り

紙の歴史について学びました。楮こうぞの木の皮を剥ぐところから、紙漉かみすき、乾燥までを行いました。

< 12月 > 講師：田場典正・松本眞清
屋嘉比康勝先生



昔のおもちゃ作り

市内に住んでいる昔のおもちゃ作り名人を講師にお迎えして、竹とんぼを作りました。できた竹とんぼをみんなで飛ばして遊びました。

< 1月 > 講師：宮城 徳康先生



タイモの収穫

みんなで一緒にタイモの収穫体験。お土産にもらったタイモ料理もとても美味しかったです。

< 2月 > 講師：博物館職員



豆腐作り&閉校式

昔ながらの製法で豆腐作り。その後の閉校式では、みんなが作った和紙で修了証書を作成し、授与しました。

わらば～閉校式

1年を通して、様々なことに挑戦してきた子どもたち。どんなことを感じ、どんなことを学んだのか・・・今回、参加してくれた子どもたちの中から、2人の感想を紹介したいと思います。

じゅく生のことば

島袋 林甫さん（嘉数小学校5年生）

わらばー体験じゅくサイコー！！

学校でもこんな授業をしてくれたらいいのにな～と思います。

ぼくが好きだった講座は、昔のおもちゃ作りと、タイモの収穫でした。おもちゃ作りは、竹トンボの竹を細かくけずるのが楽しかったです。タイモの収穫は、タイモがスポスポぬける感触が、たまらなく楽しかったです。最後に、わらばーじゅくを開いてくれた、先生たちありがとうございました。これからも、もっともっと体験じゅくを開いて下さい。

とっても楽しかったです。



高山 七海さん（カトリック小学校5年生）

私はわらばー体験じゅくに参加して、いろいろ勉強になったと思いました。たとえば、和紙作りの時に、皮をはがす所から、昔は手作業だった所がすごいと思ったし、前回のタイモの収穫でも、あんな大量なタイモを、一人で収穫や出荷までやっているのを知り、わらばー体験じゅくに入って良かったと思いました。

私が一番楽しかったのは、自然の家に行き、実際に登山をしたりカレーを作ったりする所が楽しかったです。わらばー体験じゅくを通して初めて、和紙の作り方や、その苦労が分かりました。1年間、あまり体験のできないことができて、良かったと思いました。先生方、1年間ありがとうございました。



わらば～閉校式で記念撮影 ハイチーズ

みんなのいきいきとした
笑顔が印象的でした

23年度を振り返って・・・



館長: 知念 勇

平成23年度から、学校との連携をはかるため、市内の小中学校を対象とした出前講座を本格的に実施することになり、4月の校長会で出前講座のメニューを示し呼びかけを行いました。しかしながら、暫くの間学校からの反応はなく、関心がないのかと思いましたが、11月になって普天間第二小学校を皮切りに出前講座を希望する学校が徐々に増え、1月から2月には出前講座が定着し、それに伴って、博物館見学も増加しました。

市民参加型の博物館とするため昨年3月に発足しました「博物館友の会」は現在会員が63名です。博物館と連携した活動を開始しております。今後とも多くの市民が気軽に足を運んで貰えるような博物館を目指します。

1962(昭和37)年7月1日に「宜野湾市」は誕生しました。

市制50周年
特別展に向けて

あなたの思い出の写真を提供していただけますか??



今年2012年は、宜野湾市の市制50周年・本土復帰40周年という記念すべき年です。博物館では平成24年度の夏に、市制50周年を記念した特別展を開催する予定です。

50周年の節目ということで、過去に展示されてきた写真に加え、今まで展示されなかった新たな写真を、市民の方々に見てもらいたいと考えています。

そこで、市民のみなさんにご協力をお願いします。あなたの家に眠っている、宜野湾の市昇格～本土復帰前後(1960～70年代)の写真(例:子どもたちの遊び・風景・町並み・服など当時の流行がわかるもの)などがあれば、博物館にご連絡をお願いします。

募集期間 : 3月～6月

お問い合わせ先: 宜野湾市立博物館 098-870-9317 【担当: 平敷】



宜野湾市の誕生(1962年)



ミッキージュース
(1968年)



本土復帰に向けて・通貨交換
(1972年)

開館時間: 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日: 毎週火曜日、祝祭日、年末年始(12月29日～1月3日)

*文化の日、慰霊の日(6月23日)は開館します

火曜日と祝日が重なった場合、翌日の水曜日も休館、その他くん蒸による臨時休館あり

〒901-2224

宜野湾市真志喜1-25-1

TEL(098)870-9317 FAX(098)

宜野湾市立博物館

